

特集「その発信、傷つけてない？」～ネットでの誹謗中傷が社会問題に～ 内で、一つの記事として掲載される。

表現の事前規制はすべき？

自由学園(東京都)でオンライン討論

プロレスラーの木村花さんが亡くなったことを受け、自由学園(東京都東久留米市)男子部で6月、表現の自由と規制をめぐり、オンライン上で討論する授業がありました。高等科の2年生が、表現の規制について賛成と反対の立場に分かれ、SNSでの誹謗中傷について考えました。(浴野朝香)



①オンライン上で討論する自由学園の生徒たち(画像は一部加工しています) ②高野慎太郎先生—どちらも8日、東京都東久留米市の自由学園

賛成 いじめや自殺を減らせる 反対 自由に意見、言えなくなる

授業を担当したのは、国語科の高野慎太郎先生です。SNSをよく利用する中高生の世代にこそ考えてもらいたいと、木村さんが亡くなった2日後からネット上での表現について学び始めました。

生徒たちは新聞記事などでデータを収集。これをもとにした討論が6月8、10、15日の計3回にわたって行われました。

テーマは「日本は誹謗中傷を防ぐために、表現の事前規制をすべきである。是か非か」。誹謗中傷が起こる前に、特定の表現

を規制しておくべきかどうかをめぐり、四つのグループごとに、賛成と反対の立場に分かれて議論の筋道を組み立てました。

賛成派からは「事前規制をすれば、いじめや自殺といった悲しい出来事を減らせる」といった意見が出ました。一方、反対派は「事前規制は表現の自由を保障した憲法に違反する」などと主張しました。

議論の後、生徒から「どちらの主張も正しいと言えるので、みんなが納得することは難しい。どれだけ意見に折り合いを

つけることができるかが大切」という意見も出ました。

授業の最後に、それぞれ考えをまとめました。橋本善永さんは「事前規制をすれば、表面的には誹謗中傷はなくなるかもしれない。しかし、それではSNSで自由に意見が言えなくなる」と複雑な心境をつづりました。曾根朝日さんは「自分では良いと思ったことを発信したつもりが、読んだ人たちが悪い方向にとらえてしまい、発信した人を傷つけることもあると思う。言葉は暴力よりも恐ろしい武器になりうる」との見方を示しました。

ネット教育の充実を

伊藤駿介さんは「事前規制をしても、ネットの世界では伏せ字や新たな言葉を作ることができ、誹謗中傷の手段はいくらでも生まれる」としたうえで、「事前規制をするよりも、学校でネットの危険性などの教育を充実させた方がいい。言葉の重みや影響力を知ることが必要だと思う」と結論付けました。